

911.3
7

林鹿の美地

佐山

雅道四天子一子意

知則亦可有少書

中宜有丁密貝

離韻

顯



法行在案を文

法行石京を文

かま始後詞

松平丹波守

松平能登守

為の松平能登守



俳諧集の次地下

句巡との片の季のさる唯

律中夷則

向こののの季をいぬはけの秋
惟子のきおんかしくの秋
うらめくこののし事や今朝の秋
和秋や人のうらの凡のいふ
と川秋や空をさるの月の色
秋凡とをさるや空の桐
明輝と序の尻かきる一葉の

田社 川真 雅
甲府 白芳
千代
寥和
催種
得秀

其之第一... 下
二... 秋...
... 是...
... 河...
... 中...
... 神...
... 之...
... 舟...
... 之...

巴 蝶
不 逆
鄧 麟
遷 喬
崇 茂
了 因
嶺 月
崇 里
丹 新
万 英

... 倍...
... 之...
... 之...
... 之...
... 之...
... 之...
... 之...
... 之...
... 之...
... 之...

渡 江
紀 選
沽 瀾
序 山
沽 文
巴 船
新 番
第 梨
江 南

酒好尔醉可悲一德海月
 月尔醉思为尔先过尔
 孤也惟忘世数一德海月
 也昔尔属文辞之於海月
 明也尔思如如尔之松
 陸奥之名尔之海月力取
 東之海月之海月之海月
 志乃也也也也也也也也
 向海月之海月之海月之海月
 海月之海月之海月之海月

庄内 金 英
 寄居 沾 山
 巴 鴨 川
 鳥 祥 明
 玉 芥
 甲府 羽 搖
 神 沾 居

如良の海月之海月之海月之
 朝氣尔海月之海月之海月之
 美海也之海月之海月之海月之
 石之海月之海月之海月之海月之
 如良尔海月之海月之海月之海月之

梅 郊
 笠川 筒
 川 橋
 雲 山
 有 坂

磯詩元大兩將至

福書也先の磯の道に世き
 心乃也先の磯の道に世き
 中乃也先の磯の道に世き
 水乃也先の磯の道に世き

後 雁 洲 祥
 西 園
 女 本 氏

取手の陣一移一はのゝ急 得之
舟のこゝせの音くしりもきりく 半臨

月次のみよこし

まはるおのきし染るや赤情結 嬰羽
花は行く雲と迷ふて白き 沾山
之月尔とわ夕照の思負て 患子
泉のきくきと著きぬ舟 席山

わをくぬと流ると母の川つら 沾
くくくくわののののの 嬰
舟のさる勢いの中とこすり 席
そーとくくくくく 魚
つと整ふと流るくちから横がり 嬰
おんーののののの 沾
えはくくくくく 魚
隣田一耳尔をい 席
敷木小くびー 沾
かてきくくく 嬰

八朝也 穠小翁 小翁之向 子 晋阿
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 信鳥
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 子鷹
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 秋田
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 旭
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 粘
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 山
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 素
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 同
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 露
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 阿

八朝也 穠小翁 小翁之向 子 新
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 宗
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 瑞
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 舟
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 素
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 秋
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 女
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 木
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 玉
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 沾
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 佳
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 凡
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 沾
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 澄
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 祗
 八朝也 穠小翁 小翁之向 子 巫

左少
 五葉
 沾山
 連國
 芦雪
 如毫
 素若
 沾貨
 沾千

子の権現の海らと志ののちをり

園やとよしすむらりて

草花やそ花の傍しとこころを
 花の葉の傍通とけりし秋文ぬ

芳園
 沾山
 如雲
 蝶右
 本餐
 之登
 素川
 標山
 桂室
 沾山

月次(五歌)

びくさば小日さるる小日り秋の山
 篠崎のさるるさるるさるるさるる
 了富の鹿さるるさるるさるる
 胡望の上へ横窓如月
 側くみ根さるるさるるさるる
 秋さるるさるるさるるさるる
 後り城さるるさるるさるる
 比のつらさるるさるるさるる

魚子
 沾山
 林黒
 魚
 沾
 林
 魚
 沾
 林

針葉の志の刻くみ灯の素り
 望願のさるるさるるさるる
 さるるさるるさるるさるる
 後り城の志の刻くみ灯の素り
 篠崎のさるるさるるさるる
 了富の鹿の志の刻くみ灯の素り
 胡望の上へ横窓の志の刻くみ灯の素り
 側くみ根の志の刻くみ灯の素り
 秋の志の刻くみ灯の素り
 後り城の志の刻くみ灯の素り
 比の志の刻くみ灯の素り

林
 魚
 沾
 林
 魚
 沾
 林
 魚
 沾
 林

露心の小神一ツや穂の肌 曉雨
田舎の筆反る陣と秋の景 觀刈

子垢離と酒の刃や秋の心 貞屋

立鴨と秋の心と秋の心 秋心

と秋の人の心と秋の心 律心

むいしおひら

ひ秋やうらまゝは娘目の光り 之英

志まふ心り輝きり秋の雲 絶志

山守や物うさ秋の心 栲山

川多ふ雨との味や未の秋 長崔

春神の心めりしと露や初窓棧 風和

曇ら日と情もくしと心みらふ 沾峯

麻幕と枝小さしと娘の心ら 未白

筆合ぬうをくしと心みらふ 光程

一し月小染ひるるるるら 是候

鷓鴣の説

鷓鴣 吾所秋くらくとつら説りらひら

私に 浪山の井小も小鳥の歌小有 桂考 鷓

皆をくくの跡也小鳥又秋向らくおして一定

一し心しけをな中ら向はるるるる人

空小川の秋けりし生まきり鳴少き
秋里一ゆくくらまきし鳴之鶴鳴しそのこく
小鳥の類ひ少くをちりん 又 雀 鶺鴒 古
雀小 鶺鴒は南方鳴き自鳴 白面老長
霜露 日曉 稀 出 有 時 夜 飛 別 以 樹 葉 覆 背
上下云く 生まきり鳴少き 又 雀 鶺鴒 古
まきり又秋の生まきり鳴少き 又
或書書ニ 鶺鴒の毒中をち生まきり
吾々別命有まきり鳴少き 又 雀 鶺鴒 古
引之の秋の生まきり鳴少き 又 雀 鶺鴒 古
く生まきり鳴少き 又 雀 鶺鴒 古
中川の秋の生まきり鳴少き 又 雀 鶺鴒 古

冬志がーまきり鳴少き 又 雀 鶺鴒 古
引之の秋の生まきり鳴少き 又 雀 鶺鴒 古
集く 鶺鴒は南方鳴き自鳴 白面老長
ゆきの名せしきまきり鳴少き 又 雀 鶺鴒 古
見まきり鳴少き 又 雀 鶺鴒 古
和の鶺鴒は南方鳴き自鳴 白面老長
まきり鳴少き 又 雀 鶺鴒 古
まきり鳴少き 又 雀 鶺鴒 古

律中應鐘

鳴戸と律中應鐘

沼澄

百中志と書はくしとや御一糸
 翠羽
 志くあしとあやと并し染摺は
 鶯溪
 一とあは葉ハ片の片一庇
 沼紫
 石和
 志くしとあやと約申の志くはし
 紫家
 志くしとあやとしとあやと小申時
 志くしとあやとしとあやと
 是候
 小次郎白少は枕をくしとあや
 是候
 川流く小の葉浪きしとあや
 沼布
 今御の時とあやとあやとあやと
 馬川
 本とあやとあやとあやとあやと
 麥曉

紙ぬ火の志くしとあやとあやと
 沼綸
 見おしとあやとあやとあやと
 沼史
 夢大松しとあやとあやとあやと
 佐雪
 志の時は志くしとあやとあやと
 女婉子
 鏡の女とあやとあやとあやと
 女木氏
 かれきの中とあやとあやとあやと
 如毫
 舟人の中とあやとあやとあやと
 沼雨
 物とあやとあやとあやとあやと
 茶外
 田の畦とあやとあやとあやと
 蓮千
 筆とあやとあやとあやとあやと
 新香

志高子與之曰無二不可
世復之時自以爲事之有
所爲而無之謂之無一也
意合之能一也此其所以
能一也夫意合則心合心
上下之氣也一也心合則

長
白
長
文
田
社

潮州神祀記卷之

在平定之北以爲神之
山名曰平定山神之山
山名曰平定山神之山

青
程
祥
戎
仲

名教之神曰氣也氣者
神之本也凡國之有
本統也夫以本也則
歸德也夫以本也則

御
光
林
澤

潮州神祀記卷之

神之本也凡國之有
本統也夫以本也則
歸德也夫以本也則
神之本也凡國之有
本統也夫以本也則

和
紅
翔
里
長

多しす白小菟小入きる落葉小
 流又寔小焦く落葉小
 染しゆく中きり白く大根引
 名る人のかきりかひり枇杷のむ
 本わしーやあしのかげと裁器一
 風と響きわーきら本の世を
 本わしー小海くせとさき柄が
 本わしーや柄小くさ馬 尻
 こわしーやと食採小出柄の上
 おしーや食と流きぬ経のき

沿岸
 常仙
 宗瑞
 沾林
 麥阿
 魚子
 務若
 沾吟
 長楸
 來水

流きと舟小せひて

唐詩や本わしー一つや舞え
 本わしー一星のきとけ同小わら
 本わしーすまをこれ一星の想
 本わしー小垣根がーき頼る
 本わしーやう小あらう文小き
 本わしーの森射町らや小束子き
 本わしー僻く人よと舞せぬさき
 引浪の小小流きー子きさ

溜北
 蜀山
 雨川
 文桃
 節士
 沾山
 和鼻
 沾稼

寄居
 流稼

流きと舟小せひて

白木の波客の坐る小車街
 野波津のふる子もや十三里
 水鳥やま田のまの襟さくし
 まるまの氷一舞ししを伝ふ
 昔は登六脱ふまうーや着ひの雪
 いふふ向ふぬむかぬやかたの形
 ぬおらや枯野へ旅のうら高
 冬枯やとれ、寄るまねとかり
 雪遊ふしや雪をり枯るほのこゑ
 瑞ふのそりまの目を枯野に

千梅
片のま 素玉
張府 雁洲
 石知
 梅郭
 光程
 沼礎
片のま 沼林
 長

遠の松のけあらまうー枯野原
 世の舞や枯や小貝を牛の角
 日あり小鳩ら一羽羽のかさやう
 狐火のすけあくこゆは枯やう
 雪と捨てな小鳩らや枯る尾美

長尾 呂由
 半輪
 素川
 沼吹
 雪

月次いひな

松小凡をれとあしそ枯野に
 梧桐白くくさるの足跡

沼山
 橋谷

初家也... 洞伴... 管舟... 合... 下...

張... 杜... 山... 冠... 文... 主

月... 日...

... 年... 直... 江... 山... 村... 之... 氣...

... 玉... 斧... 榜... 山

... 風... 秋... 不... 舞... 定... 始... 長...

... 山... 羽... 玉... 山... 山... 玉

清くあらしきと雲湯ふと流
 ありし川にさし花のあらし
 有るの、能ふと宿の相もし
 左近ひくの寺しし明善
 月と新う向ふんし露はし
 有戸田の丁のふましく
 葉吹や奈良の酒食吹上場
 くらりゆきく繕ふてある書
 お隣の如入しふはしに如く
 玉とふの、富のとしゆり

玉 翠 礎 沾 翠 玉 礎 席 沾 翠

下 古

経百夜おくくくくくくくく

十夜うらぬくかひりきり床持
 町人の世界くさりしむひお持
 急ひお持の結ししとつがハ
 ちやくと目陰の袖小石露のむ
 去りかやくくきり花と後下しあひ
 そよひの世とくの信少く

魚 貫 沾 轄 園 二 来 丸

清見ヶ笑門様の本

駐笑の戸白おさくくくく

沾 山

八橋のくくくく

杜若のうららしく朽ぬ名えきり

長柄の櫛梳のよ

造りよの今もあはれや桐栢

律中黄鐘

桐のよやあはれ葉と朽ぬ神を月

宰人の名れをきりあはれ月

川津へ田あはれ海あはれきり

板底青の短きあはれきり

こがしむ向ふはあはれあはれ

序山

浙江

夏聲

歳星

風和

萍如るはあはれの子のきり

志の身の内をきりきり

詩書のあはれあはれ

ハコヤ実のあはれのきり

水仙小島の名をきり

水仙とあはれあはれ

友人新宅とあはれ

水仙やあはれあはれ

水線りあはれあはれ

羊素

松山

沼山

信鳥

玉沼

巴舩

巴舩

祥明

巴鴨

御鏡

山陰之邑... 來會之臨... 飛之... 神風... 發... 吳... 古... 神... 福... 上...

站貨
長花
筆端
松山
紀京
是候
錦
御
江
南

神... 上... 之... 神... 神... 上... 神... 高... 羽... 香...

于玉
凡
登
布
負
露
桃
高
觀

日ありては髪ぬく守み六寶巴
 後のさきぬものつひ中一
 盃のたれんこちまで難う唱
 誰しとあふて祝まきの琴
 毒の定め成りそり神の目おくり
 糸さそくの徳を源し或
 山あつしと平元かかろふお
 くらこひ鳥一日のち子
 いそくとあそこの若きる被る薩
 洗濯川下ぬらそと水子なり
 櫛 浴 席 櫛 巴 浴 席 櫛 巴

櫛の木の梢ろくろくと活之り
 五里ノ一ノきく福と由さう太々
 夜小のくそれくちうけり

豊明節會

豊明節會 とき 吾所白小より難く 桂考
 上事根源日 上月中の辰日そくハ今午の福と中
 の卯日神(を)とせまひりふハ一まこ一め
 長下ふしあふ少一小節會とそく法代の辰小
 多々大掌會とそく今午のト新掌會とふ大掌
 會の時を辰の日と悠記の節會己の日とま基の
 長あふふし 拾或ホ事長川 略一と知ん

律中大呂

矢原川のほとりへききしを筑
埒の向く月とてなれぬをいふ
枝くらの音なき一庭の面
松とかり踏ん一歩の音なき
冬川のほめはけりけり雪の
探ふふと及ぬ梅の小はひを
空梅や雪のふもてはけり
空梅や雪のふもてはけり
いふ空梅や雪のふもてはけり

紀 逆
沽 淵
魚 子
西 空
甲 府
白 芳
神 宗 河
連 山
如 簧
芦 江
之 阿

初年や梅子しゆハ浪とかり
三年の市何炭とけとけとけ

沽 山
催 種

去々年々歡のころる
あやゆりしとらふ又改くけり
ふんふ

跨るふハ梅り大まき一その川

合歡扇

元文四未上旬



高松勸業所
并屋敷之門板

二春園家

秋田精造

三

秋田

秋田精造

此後為...
...
...
...
...

二...
...
...

河魚

治

集

下

多

瑞

三